

危険予測学習の進め方（例） — 右側通行の危険 —

学習内容	指導上の留意事項等
<p>①交通状況の読み取り (個人～発表)</p>	<p>この絵はどんな場面だと思いますか。絵を見て考えられることを発表してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自らが自転車運転者の立場となって、状況を詳しく把握させる。 ・発表させる。 (歩道の状況、自転車の状況、周囲の車両の状況など) ・生徒に次のような状況を読み取らせる。 右にカーブしている道路がある。 本人は、右側通行している。 しかし、道路の端にはブロック塀があり、大変、見通しが悪くなっている。
<p>②危険の予測・重大な危険の絞り込み (発表～話し合い)</p>	<p>このまま進んだら、どのようなことが起きると思いますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この場面で起こり得る事故やありそうな危険をできるだけ多く予測させ、板書する。その理由も述べさせる。 ・どのような意見でも肯定的に受容する。 ・対向車両は、前方から自転車 coming というのを全く予想していないことや、この車線の前方から、正しいルールに則り通行する自転車や歩行者がいることも予測させたい。 <hr/> <p>「ありそうな危険・起こりそうな事故」のなかで、重大(大変)だと思う危険・事故を選びましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートを用いて、◎や○を付けさせるのもよい。
<p>③回避方法の考察</p>	<p>そのような事故にあわないためにはどうしたらいいですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絞り込まれた危険・事故に対し、どのようにしたら危険が回避できるか、話し合わせる。 ・運転者が陥りやすい心理なども考え、ふさわしい行動を話し合わせる。 ・選んだ回避方法の理由を明らかにさせる。
<p>④まとめ</p>	<p>これから気を付けることを自分の言葉で短くまとめましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ワンポイント行動目標」として一言でまとめさせる。 例：「ルールを守り左側通行」「見えない場所には、人や車がいる」等

※ 一斉学習だけでなく、導入後、4、5人のグループに分けて、①②③の活動を行い、最後に、グループごとにまとめを発表させる方法もよい。

※ グループで進める場合は、簡単なワークシートを作成し記入させるとよい。

<p>安全上の望ましい行動</p>	<p>① 前からやってくる自動車は当然道路の左側（自転車から見れば道路の右側）を走ってくる。左カーブでは、左側から来る自転車をぎりぎりまで発見することができない。 自転車は、ルールに従って左側通行することにより、対向車からも早く発見され、安全が確保される。</p> <p>② 対向車両は、前方から自転車 coming というのを全く予想していない。また、発見できたとしても、カーブでは自転車はブロック塀から突然現れたように見え、正面衝突する事故となる場合が多い。 自転車は車両の一つであるとの認識をもち、左側通行を厳守する。(教則第3章第2節1(2)参照)</p> <p>③ 前方から、正しいルールに則り通行する自転車や歩行者が突然現れることも十分予測される。見えないところには、必ず人や車両などが来ているかもしれないという意識をもつ。</p>
-------------------	--